



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

中島, 皇

CITATION:

中島, 皇. あとがき. 時計台対話集会 2008, 4

ISSUE DATE:

2008-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/176939>

RIGHT:

あとがき



中島 皇

フィールド科学教育研究センター

社会連携委員長

今回の時計台対話集会のプログラムは二〇〇七年に退官された田中・竹内両教授と天野礼子さんによる企画案を、社会連携委員会が受けて内容を検討し、昆虫をキーワードに「森里海連環学」の展開を考えたものでした。

森里海連環の発想は、当たり前前のこと
が当たり前前になされていけば(言い換える
と自然のサイクルで回っていれば)起こらな
かったことが、当たり前前でなくなった為
起こっていることが数多くあるのではない
かと多くの人が感じていることにも基
づいています。そして、それは言うまでもなく
人間を中心とした「環境」の問題です。一
方、昆虫は人類よりもはるかに長い進化の
歴史を持ち、彼らにとつての「環境」に適
して現在も陸上を人類と二分する勢いで、
大いに繁栄しています。その彼らに教わる
ことがあるのではないかと考えるから

副題がつけられました。ただ、森、里(川)は
昆虫の天国ですが、海、特に大洋に昆虫は
ほとんどいないそうです。よく考えれば、人
間もそうでした。

講演では昆虫・環境に関する話が、いろ
いろな角度から判りやすく紹介されまし
た。アンケートの回収率は五十四%と余り
良くなかったのですが、非常に良かった三
十七%、良かった五十三%で、及第点は頂
けたと安堵しています。全国からの参加が
あるとともに、次世代を担う若者の姿を
多く見かけました。これらは大きな希望
です。また、「虫は人間のように地球温暖
化に対して、政治的な思惑が入り込まな
いので、正直に事実を反映していることが
よくわかります。」「経済優先の社会で、
自然を正常な形で残すことがいかに難し
いか痛感しています。」「こういう講演会
で最後の会場との討論会がすすばされた

りするのですが、三十分以上たつぷりあつて
有意義な内容だったと思います。」「このよ
うな大切な講演が何故各家庭へ響かない
のでしょうか。情報と経済にまよわせられて
私達自身が考えられるような環境が望ま
しく思います。」「など、我々が進むべき道を
教えてくれるような数多くの貴重なご意
見を頂きました。

最後になりましたが、講演頂いた方々、
特別出演の「ムラタセイサク君」及び(株)
村田製作所、協賛団体・企業、後援を頂い
た京都府、京都市に心から感謝致します。
フィールド研としては、今後ともこのよう
な対話集会を続けていくことを一つの大き
な使命と認識し、「森里海連環学」のしっ
かりとした「根」として育てて行こうと思
っています。

第4回時計台対話集会 講演録 平成20年8月1日 第1刷発行

編集・発行 ● 京都大学フィールド科学教育研究センター

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 TEL 075-753-6416

編集協力 ● サイファアソシエーツ株式会社